

令和5年度地域ケア会議実績報告について

地域ケア個別会議とは、何らかの課題を抱えた個別ケースについて、本人の支援に関わる総体的な内容について検討を行う会議である。

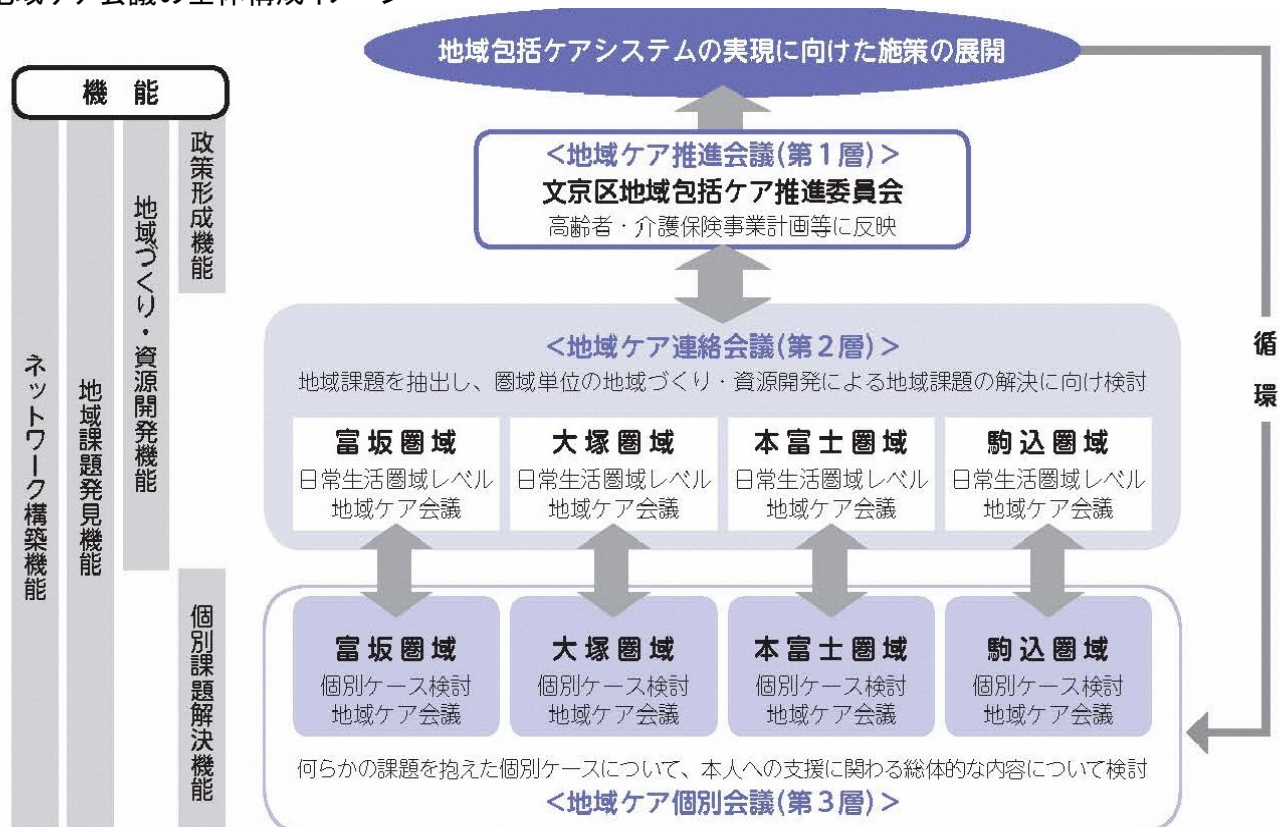
地域ケア連絡会議とは、個別地域ケア会議の積み重ねから地域課題を抽出し、圏域単位の地域づくり・資源開発による地域課題の解決に向けて検討を行う会議である。

事例確認会では、居宅介護支援事業所及び高齢者あんしん相談センターから提出された事例の中で地域ケア個別会議に提出する事例を選定する。

1 各圏域における地域ケア会議開催実績

圏域	名称	内容
富坂	事例確認会（2回）	居宅介護支援事業所及び高齢者あんしん相談センターから提出された事例を確認し、個別ケア会議及び連絡会議に提出する事例を選定した。
	地域ケア個別会議（2回）	個別事例の支援への検討を行い、地域の共有課題の発見を行った。
	地域ケア連絡会議（2回）	個別ケア会議で抽出された課題に対し、日常生活圏域レベルで検討を行った。
大塚	地域ケア個別会議（4回）	個別ケースについて、本人にとっての最善の支援をケア会議にて検討した。
	地域ケア連絡会議（2回）	個別会議で出た課題をどのように地域づくり及び社会資源開発につなげていくかを検討した。
本富士	地域ケア個別会議（4回）	提出された個別ケースについて話し合い、今後の方針について検討を行った。
	地域ケア連絡会議（2回）	対応困難なケースの対応策の共有を行いつつ、地域で多職種がつながれる仕組みについての意見交換を行った。
駒込	地域ケア個別会議（5回）	認知症や精神疾患を持つ高齢者等の個別事例を話し合い、社会資源に繋げていけるよう検討を行った。

（参考）地域ケア会議の全体構成イメージ



令和5年度地域ケア会議実績報告について

2 個別会議の開催状況まとめ

No.	圏域	テーマ	検討事例と課題	方針と対応策	地域の共通課題と解決策(案)
1	富坂	認知症	【検討事例】 認知症状の進行により、物盗られ妄想が頻発し、定期通院が難しくなっている方の支援 【課題】 ①物忘れの受診、定期通院ができていない ②服薬できていない ③生活の不安から物盗られ妄想がある	①訪問診療等の検討をする。 ⇒医師、ケアマネ、介護事業者により、理解力低下・物盗られなどの認知症上へのフォローを実施 ②1人暮らしでも服薬ができるよう支援体制を整える。 ⇒ケアマネ、介護事業者、薬局、訪問診療により、服薬確認をする。 ③認知症の本人が安全と感じられるよう生活環境を整える。 ⇒ケアマネ、介護事業者、生活援助員、親族により、本人にとっての不安、安全を探り、環境を整える。	○物盗られ妄想等が起こる方の状態に合わせた医療的支援、生活環境の整備 ⇒CMをはじめとする支援者側のアセスメント能力を高める勉強会等の企画。 ○物盗られ妄想の対象者(身近な支援者)の辛さや不安を解消するための、支援者間連携と支援体制の工夫 ⇒物盗られや被害妄想の対象となっている人(身近な支援者)へのフォローができる機会の企画、提供。 ○認知症高齢者が求めていること(話をしたい、楽しく交流したい)を叶える場の検討をする。 ⇒認知症カフェや地域の交流の場に認知症の本人が参加ができるよう移動支援の検討、体制づくり。
2		買い物支援	【検討事例】 自身で買い物に行きたいという希望が、痛みのために断念されているケース 【課題】 ①病気で旅行等に行けず、生活の楽しみが限られている。 ②ヘルパーサービスの内容と本人の希望のズレ ③病気の進行で残された時間が少ない。	①②本人の楽しみである買い物を続けられるようにする。 ⇒ヘルパー、包括、地域の商店の協力により、本人のできることを尊重し、できない部分はサポートしつつ、希望に沿った買い物支援に取り組んでいく。 ③本人のやりたいことを優先して終末期を過ごすことができる。 ⇒医師、ヘルパー、包括、知人により、終末期の希望を聞き取り、実現のサポートをする。	○坂道の多い地域や商店の少ないエリアにおける買い物難民の発生 ⇒買い物に関する区民のニーズを分析する。 ○柔軟な対応(FAXや電話での注文、移動販売など)のできる商店の不足 ⇒地域の商店の情報収集、補助金による商店のサポートを検討し、柔軟な対応を行える商店を増やしていく。 ○買い物支援の介護保険によるサービスを補う、地域ボランティアの不足 ⇒ヘルパー事業所を活用した横出しサービスの検討
3	大塚	介入拒否	【検討事例】 サービスに拒否があり、ケアマネ、ヘルパー、デイ等のサービスが入れず困っているケース 【課題】 ①キーパーソンがおらず、本人が後見制度の利用を望んでない ②義歯使用を拒否し、低栄養状態 ③サービス利用について拒否があり、介入が難しい。	①今後、成年後見制度などが必要となってくる。 ⇒ケアマネ、行政により、財産管理についてタイミングを見て伝えていく。 ②身体の状態を考え、口腔内の見直し・転倒のリスク軽減に向け、対応を行う。 ⇒ケアマネにより、歯科受診、往診について、訪問時に支援を行う。 ③必要なサービスを本人が利用するとメリットあることを伝えていく。	○キーパーソンのいない高齢者について ⇒親族の支援の確認。出来ない場合の成年後見制度などの必要性を検討。 ○サービスを入れたがらない、他人を頼りたがらない方への支援 ⇒ケアマネのモニタリング時に本人との信頼関係の構築に努める。
4	本富士	カスハラ対応	【検討事例】 行政などへの不満感が強く、ケアマネに対して暴言を吐いてしまうケース。ケアマネはどのような役割を担うべきか。 【課題】 ①重い疾患を抱えている事もあり、受診や精査、処方薬のことを家族へ働きかけが必要。	①担当ケアマネより、本人の疾患について受診や精査、処方薬の事について家族と相談。虐待防止の観点で家族の関係性についても関わりの中で把握しておく。 ①包括より、必要に応じてケアマネと同行訪問などを行う。	○ケアマネが相談できる場がない。 ⇒他区でのケアマネ連絡会などを参考にケアマネの組織化を検討
5		重層的な支援	【検討事例】 認知症の本人、娘の精神疾患があり、地域で孤立しないよう在宅支援が必要。どのような支援ができるか。 ①認知症状が進行し、意欲低下がある。適切なサービス介入ができない。 ②精神疾患の娘の介護力が乏しい。長女が介護負担を感じている。 ③家族の経済面の把握ができていない。	①②③各関係者が集まり、チームで親子を支援していく。 ⇒ケアマネと娘の支援者など、親子の支援者間で集まって情報共有を行い、チーム連携を図る。 ⇒地域住民より、地域で親子の見守り方法を検討していく。 ③ケアマネと娘の支援者、社協より、経済面を把握し、本人の金銭管理を考えていく。	○高齢、精神など制度が異なる要介護者の世帯への支援方法と連携 ⇒親子の関係者が連携。チームで対応する。 ○地域で親子の孤立を防ぐ ⇒親、娘の相談先を明確にする。
6	駒込	意思伝達の課題	【検討事例】 日本語を母国語としない文化圏の方への支援 【課題】 ①日本語を母国語としない方とのコミュニケーションの不良	①第二言語として日本語を習得し生活してきた方は、年を重ねて日本語の理解が困難になる場合があるため、コミュニケーションが取りやすいように文化的背景を考慮しつつ支援を検討する必要がある。 ⇒医療関係者、行政、包括により、継続的な把握活動を行う。	○文化圏が異なる住民の増加 ⇒コミュニケーションや習慣の教示を行える人を把握する。

令和5年度地域ケア会議実績報告について

3 連絡会議の開催状況まとめ

No.	圏域	今回のテーマ(地域課題)及び 会議開催により期待すること(到達目標)	地域ケア会議での方針(今後必要な視点)	当面の対応策(実施中を含む)	区レベルでの検討が望まれる課題
1	富坂	○嚥下に恐怖心を抱えていながらも食事が摂れるようになり、もう一度「食べることを楽しむためには	①病気の影響から『食べることを諦めてしまった人のQOLを守る視点。 ②嚥下や病気で悩み、上手く食べられない人に食事提供をしている家族やヘルパー等の支援者を支える視点。 ③介護保険認定がある人だけでなく、同じような悩みを抱えている人が改善や予防の相談ができるシステムづくり。	○包括と行政により、飲み込み機能の向上、食べるための口づくりを本人と一緒に考えてくれる歯科医師(相談先)と管理栄養士の情報収集を行う。 ○介護保険事業者、ケアマネ、包括により、介護保険の訪問栄養食事指導(管理栄養士居宅療養管理指導)の利用を検討する。 ○包括・行政・社協により、10の食品群を摂るために「さあにぎやかにいただく」食べポチェックシートを作成し、日頃からの意識づけとして配布する。 ○社協によりオンラインでの運動や栄養情報の提供	○短期集中予防サービスで口腔・嚥下、栄養に特化したプログラムの検討。 ○総合事業サービスの訪問型サービスCとして実施の検討。 ○ケアマネ等の支援者が歯科医師、言語聴覚士、管理栄養士と、口腔機能、嚥下評価、食事摂取、低栄養改善に関する相談、検討できる場の提供。 ○セラピストや看護師、管理栄養士等の専門職から一時的に評価や助言を受け、本人が日頃から機能の維持や向上に取組める事業の創設(介護保険外)。
2		○買い物弱者の支援 ～移動スーパーが地域を変える！？～	①移動スーパーは、買い物という行為が楽しみであり、行為自体を提供できるサービスである。 ②課題として提携スーパーとドライバーは個人事業主であるため一定数の顧客と売上がないと事業ができず、駐車場や到着を知らせる音楽に苦情が入ることもあるので、地域の理解と協力が必要である。 ③②を解決するには、富坂地区の地域住民の理解を求め、ニーズ把握と顧客発掘をしていく。 ④②を解決するには、利用者・事業者と関係を構築していく。	○ヘルパーや家族による買い物支援の継続。 ○生協や宅配の活用。 ○行政、包括、社協により、移動スーパーは大塚地区の一部で導入済みであるため、先駆的な取組を参考にしながら地域情報を共有していく。 ○包括、社協により、継続的なニーズ把握と社会資源の把握をしていく。	○スーパーと見守り協定を結び、見守り支援も兼ねた移動スーパーを導入できないか検討する。 ○コミュニティづくりを通じて買い物弱者の支援者を増やしていく。
3	大塚	○高齢者の余暇活動に資する外出支援(買い物等)サービスがない。 ○当事者同士が気軽に集まって話せる場所づくり。	①移動支援について(インフォーマルな) ②車いすステーション開始となるが車いすを押してくれる支援者 ③重層的な居場所作りの拡充について	○行政により、他区には既にある移動支援を参考にサービスの導入の検討を行う。	○障害サービスの同行援護のような介護保険サービス以外でも利用できる外出支援 ○車いすステーションが開始となるが車いすを押してくれる担い手不足 ○居場所の拡充についてどのように行政と連携がとれるか。
4	本富士	○令和4年度～今年度の個別ケア会議にて抽出された本富士地区の地域課題の共有と課題整理。	①今年度の個別ケア会議に抽出された本富士地区の課題共有 ②令和4年度の課題を再検討し1.5層に向けての課題検討	○医師、歯科医、薬剤師などによる、多職種連携におけるタイムリーな情報共有 ○民生委員、社協、包括で、 ①地域で孤立している方の把握・情報共有 ②地域の困り事にどう対応できるか共有を行う。 ○行政、主任ケアマネ、弁護士、包括などにより、ハラスメントの相談の場の拡充、啓発活動を行う。 ○包括によるケアマネジャーの集まりの場の整備。区・各関係者機関と連携し支援、対応などを行う。 ○拠点、包括により、親子関係の孤立防止に努める。	○ハラスメントの相談先がない。
5		○昨年度～今年度の個別ケア会議にて抽出された本富士地区の地域課題の共有と課題整理 ○「家族問題について」本人、介護者、支援者間の問題について検討	①3層の課題整理と情報共有 ②2層会議内で解決できそうな項目について検討をする ③昨年度の課題の報告と共有	○医師、歯科医師、薬剤師により、緊急時対応、夜間対応をした場合の加算を踏まえて対応受け入れ増やしていく。また、災害時の対応をする。 ○拠点、弁護士により、親亡き後の相談の場として対応する。 ○社協、拠点、包括、ケアマネにて、世代間交流できる場・介護保険外の集まりの場の整備 ○行政、包括により、ケアラー支援の工夫をする。 ○民生委員、包括、行政にて地域で孤立している親子の把握、把握した情報の共有を行う。	○親子が通える場やデイサービスを作る「共生型サービス」 ○ケアラー支援の対応の工夫
6	駒込	連絡会議の開催は無し。			